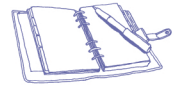
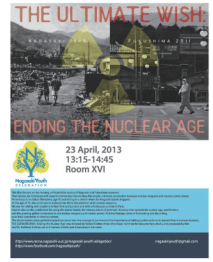
～国連内ワークショップの開催～

▲自主ワークショップでのディスカッションの様子



国連内で配布したワークショップのチラシ▶



準備委員会が行われる国連の建物では、本会議と並行して、NGO等が主催するさまざまなイベントが行われます。北東アジア非核兵器地帯をテーマにした日韓NGO主催のワークショップでは、ユースメンバー2名が若者の役割についてプレゼンテーションを行いました。

4月23日にはナガサキ・ユース代表団の自主イベントを開催しました。キャサリン・サリバンさんらのプロデュースによる「The Ultimate Wish（究極の願い）」という映画を題材にしたディスカッション中心のワークショップです。映画上映後に参加者同士で感じたことや考えを共有しました。ランチタイムということで参加人数は少なめでしたが、ドイツの大学生グループも参加し、日独の原発政策についても熱心な議論が交わされました。

～日本語補習校での平和授業～

ユースメンバーは、医学、経済、教育など、一人一人の専門分野における知識や経験を生かした活動を行いました。

教育学部のメンバーを中心に行ったのが、日本企業の駐在員や国際機関の日本人スタッフの子女が通う「ジュネーブ日本語補習学校」での平和教育の実践です。小学生向け、中学生向けと2日間にわたって「大学生による平和の授業」を行いました。日本から遠く離れて暮らす子どもたちが被爆の実相を知るとともに、平和な未来への希望を描けるような内容を組み立てました。「もし長崎と同じ原爆がジュネーブに落とされたら、パリからでもきのこ雲が見える」といったICT教材を使った説明に、スクリーンを見つめる子どもたちからは一斉に驚きの声が上がっていました。

～SAKURAプロジェクト～

「核兵器は遠い、誰かの問題ではない。私たち一人一人が密接にかかわっている問題だ」。ユースメンバーはこうした問題意識をもって準備委員会に臨みました。その思いをさらに多くの人々と共有するために、メンバーの有志が行ったのが「SAKURAプロジェクト」です。外交官を含む現地で出会った人々に「自分の大切にしているもの（人）」を桜の花をかたどった紙に書いてもらい、核兵器はこれらの「愛するもの」を一瞬で破壊してしまうというメッセージとともに、それを桜の木のオブジェに張り付けていく、というものです。

3 帰国後

～修学旅行生への出前講座～

5月15日、岡山県の中学校から要請を受け、修学旅行中の中学生を対象とした平和講座を行いました。ユースメンバーの活動を中心に、長崎の若者の取り組みを紹介しました。

～米大学生との意見交換会～

5月19日、米インディアナポリス大学の「広島・長崎講座」受講生との意見交換会を長崎原爆資料館で行いました。

～活動報告会 “We are Youth, We are the Future!” ～

6月14日には「ナガサキ・ユース代表団」としての活動のまとめとなる活動報告会を長崎大学文教キャンパス内で開催しました。

ナガサキ・ユース代表団1期生としての公式活動の終了後も、それらの活動を通じて得た知識・経験・人脈を活かし、ユースメンバーは各方面で活躍しています。

68回目の長崎原爆忌の翌8月10日には、ユースメンバー有志を含めた若者で構成する「8.10実行委員会」が企画・運営を担い、イベントを開催しました。「大学生が動き出す～核の今、世界の未来～」と題したこのイベントでは、核兵器を巡る世界の現状を「劇」で表現するなどの工夫を重ね、新しいスタイルの若者主体のイベントを目指しました。全国各地からの大学生の参加もあり、予想を超える120人が出席。ユースメンバーがジュネーブで出会った、ヨーロッパの若者団体「BANg」のマイラ・カストロさんも来てくれました。

～若者の挑戦は続きます～

「大学生が動き出す」―この言葉の通り、被爆地長崎の大学生に新しい風が吹き始めています。核兵器というテーマは、まだまだ多くの学生にとって「遠い、難しい、自分と関係ない」問題かもしれません。でも「ナガサキ・ユース代表団」の存在がきっかけとなって、この問題に目を向ける若者の数は少しずつ、でも着実に増えています。

「ナガサキ・ユース代表団」の挑戦はまだまだ続きます！